

報道実務家フォーラム2025
2025.4.26.1510～1630

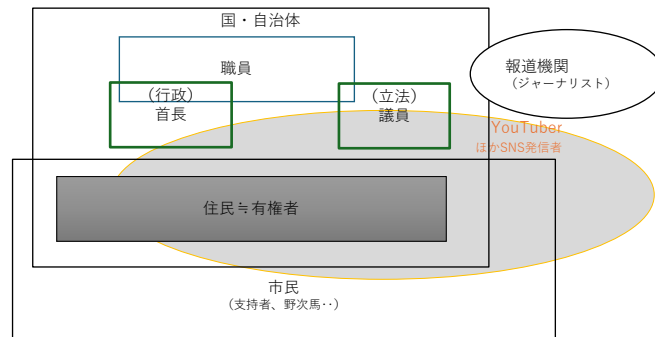
前代未聞の兵庫県知事選
～現場の記者は何と向き合ったのか～

山田健太
yamada.kenta@nifty.com

1

候補者の好き勝手な言動 熱狂する聴衆
SNS・ネット空間への対応
記者会見のあり方 ジャーナリスト要件
記者への誹謗中傷
ファクトチェック 選挙報道の公平公正
↓
選挙期間中の表現活動
を通じての
SNS時代の民主主義の在り方

2



3

選挙取材・報道をめぐる現在の課題

- 中立公正原則の呪縛
公選法(放送法)の規定 政治家・政党への慮り
- ファクトチェック手法の未確立
怪しいをどう判断 逆効果をどう防ぐか
- SNS対応の大変さ
片手間作業に限界 ネット言説優位の状況
- 記者への精神的物理的攻撃
日常の取材活動への影響 社・記者間の温度差

4

なぜ平等報道に拘泥するのか

- 安全志向からきた数量平等ルール
総務省の一方的な「解釈変更」に抗えるか
 - 政治家・政党への配慮
政治家からの「仕返し」に耐えられるか
- ↑
- 権威とりわけ政治権力に弱い新聞社の体質
お題目として「自由」原則を掲げるだけでは変わらない

5

なぜファクトチェックができないのか

- 新聞の伝統的作法に外れる
怪しい、とは書かない
 - 選挙期間中の時間的限界性
公正公平さへの強いこだわり
- ↑
- 客観中立報道を旨としてきた新聞社の体質
報道ルールを含めた見直しが必要

6

なぜSNSにボコボコにされるのか

- 攻めには強いが守りには弱い
言われっぱなし、やられっぱなしの状況
 - ネット言説による偏向報道批判が浸透
無視・黙認が消極的な加担として作用
- ↑
- 圧倒的な説明不足は紙面で勝負の負の側面
丁寧・冷静な饅頭型報道を繰り返すことが必要

7

なぜ記者がいじめられるのか

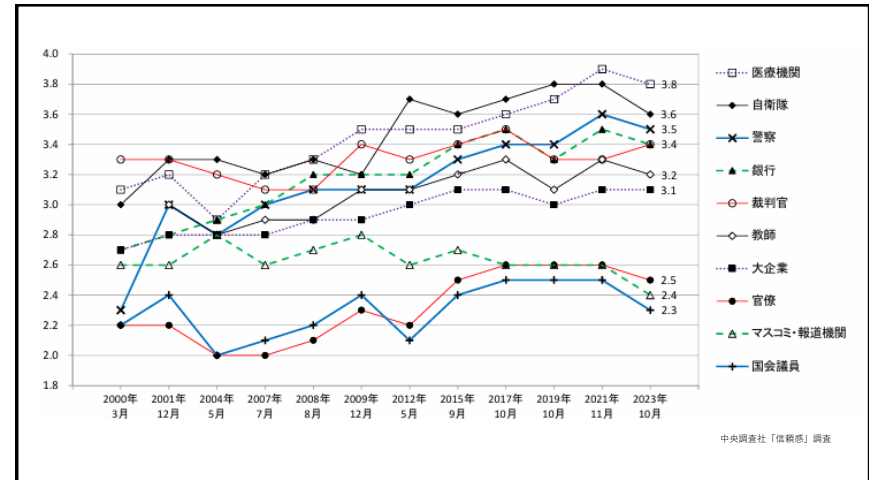
- 記者はそもそも信頼されていなかった
ジャーナリズムへのリスペクトがない日本社会
 - 晒し行為を自分事として考えてこなかった
無防備なうえに経験がなく耐性も弱い
- ↑
- これまで絶対的な「安全地帯」にいたことの反動
根性論では太刀打ちできないことの認識がまず必要

8

記者攻撃の社会的構図

- モンスターペアレント
2007年流行語大賞
- カスタマーハラスメント
2010年代初めから
- 誹謗中傷・晒し行為のエンタメ化
2010年代後半から
- 社会(メディア)の分断化
2010年代後半から

9



10

選挙期間中の問題の所在

- ネットの方が面白い
報道がつまらない
- 新聞/テレビは信頼できない
ネットの方がよくわかる
- 選挙コンテンツは儲かる
主義主張関係なしでバズれば勝ち
- そもそも選挙/政治に興味なし
どうせ何も変わらない

11

ネット上の表現の自由の特徴

- ネット上の表現規制形態の曖昧さ
有害コンテンツ/不正アクセスは違法(リアルとの違い)
過剰な規制につながりがち
- 官製自主規制の定着
ヒト・モノ・カネを供給する共同規制
警察庁・総務省+法務省・文部科学省
- 公権力の謙抑性の後退現象
警察の表現活動への介入が一般的に
刑事罰から民事罰への流れと逆行

12

コミュニケーションの変質

- 対話の軽視/コミュニケーションの表層化
威嚇・恫喝・嘲笑、対話の拒絶
非真実性(虚偽・誇大表現＝偽誤情報)
- 基礎的公共情報の軽視
公文書の改竄・破棄・隠蔽、記録の不存在
過剰な匿名社会化(被害者実名への忌避)
- 緩やかな合意の喪失
政権批判≡数量不均衡(不平等)≡偏向
マスメディアの喪失による共通の土俵の不存在

13

ネット空間の課題

- 偽誤情報の氾濫(ネットde真実)
ウソ→注目→再生産→多数意見→真実化
虚偽情報のマジョリティ化
- 切り取り動画(儲かるコンテンツ)
ビジネス介在による作為的拡散
ノーカット版動画も人気
- 遊びの場(政治はエンタメ)
目的は差別でも当選でもなく注目を集めること

14

オールドメディア批判

- 1970年代からの強まるメディア批判
(疑問70→批判80→不信90→否定00→不要10→排斥20)
- とりわけ2000年代以降の選挙報道の萎縮
+
• フィルターバブル
• 確証バイアス
↓
伝統メディアvsネット言説の構図

15

選挙制度の歪み

- 法の想定との逆転状況
選挙活動(候補者の表現の自由) △のはずが○
選挙報道(メディアの表現の自由) ○のはずが△
- 公正/政治的公平さ
政治的公平さ＝数量平等
偏向≡数量不平等≡政権批判
- 市民不在
規定がないままネット上では事実上やりたい放題

16

選挙をめぐるネット空間

- 政治家としてのネット利用：玉木雄一郎、石丸伸二 山田太郎
- 自身の政治的主張を選挙を利用しネット上で拡散：
 ハイトスピーチ系：桜井誠、ジョーカーこと河合ゆうすけ
 ユーチューバー系：立花孝志、暇空茜（ひまそらあかね） ガーシーこと東谷義和
- 儲かるマーケットとして選挙に参入するネットビジネス人：
 ホリエモン（堀江貴文）、ひろゆき（西村博之）
 +
- 政治系インフルエンサー：橋下徹、東国原英夫、中田敦彦

17

保守系が占める言論空間

- YouTube 登録数300/100/50万以上
 中田敦彦 PIVOT
 NewsPicks ReHacQ(リハック) 高橋洋一 虎ノ門ニュース
 立花孝志 三橋TV 竹田恒泰 上念司 デイリーWiLL など
- 論壇誌(総合雑誌)
 文藝春秋 中央公論 正論 VOICE WiLL 潮 世界 地平 月刊
 日本 WEDGE Hanada 選択 経済 リベラルタイム 創
 ZAITEN (現代 論座 諸君! 自由 新潮45 展望)

18

選挙表現活動のそもそもの問題点

- ネット(YouTube/切り取り動画)＝選挙活動
- テレビ/新聞・雑誌(報道機関)＝選挙報道
 ↓
 〈選挙活動〉情報のみで投票でいいのか
 しかも、候補者本人ではなく、ビジネスコンテンツ
 ＝多くの偽・誤情報が含まれている

19

インターネットの変遷

- 1995 ネット元年(Windows95)
 情報公開法2001
- 2005 ネットインフラ整備(定額制、高速化)
 在特会拡大2011
- 2015 スマホの普及 SNSの定着
 コロナ禍2020
- 2025 真の「情報主権者」の確立へ
 ジャーナリズム・リテラシー教育の実践

20

ネットとうまく付き合い活用する

- 情報リテラシー教育
 - メディアリテラシー教育から
 - ジャーナリズムリテラシー教育へ
 - 情報収集処理能力→批判力や見極める力
 - 小中高(初等中等)とともに大学(高等教育)でも
- だれにでも優しいデジタル化
 - マイノリティの声が通しやすいシステム設計
 - 自治体の行政現場にも優しいシステムが必要

21

法規定の特性

- 曖昧さ(余白)と行政裁量(いい加減)
- 表現の自由を幅広く保障
 - ↑↓
 - 公職選挙法は選挙期間中の表現行為を規定する法律
- そもそも放送法4条が放送の自由を邪魔してる？
 - 撤廃による自由の獲得は、さらなるネット化を促進
 - 放送局の「視聴者への約束」の大切さ

22

選挙報道の役割

★選挙報道は「民主主義の維持装置」

- 公正な選挙の実現
- 有権者に必要十分な選択情報(投票判断材料)
- 選挙期間中に自由で豊かな情報空間の確保
 - ↓
 - 選挙活動情報に左右されない的確な判断材料の提供
 - 選挙報道の役割を確保する制度上の保障

23

選挙報道の「公正」

★量的平等ではなく質的公正

質的公正の意味

- 弱者視点＝市民目線
- 肩入れしない＝党派性の除去
- 今の政治で忘れられている人・層の救い上げ

↓

社会の課題解決の機会である選挙をフルパワーで

24

山田健太プロフィール

専修大学ジャーナリズム学科、同大学院ジャーナリズム学専攻教授
専門は、言論法・ジャーナリズム学

著書に、『法とジャーナリズム 第4版』勁草書房、『ジャーナリズムの倫理』勁草書房、**絵本**『くうき』が僕らを呑み込む前に』理論社(共著)、
『高校生からわかる政治のしくみと議会のしごと』トランスビュー(編著)、**新刊**『転がる石のように』田畑書店 など多数

日本ペンクラブ副会長、自由人権協会理事、放送批評懇談会理事、
情報公開クリアリングハウス理事、日本図書館協会「図書館の自由委員会」委員、映倫「次世代への映画推薦委員会」委員など

25

「選挙」に関する主な拙稿

- ・「選挙報道をリポートする!!ネットにできない報道へのバージョンアップ」GALAC2025.03(座談会)
- ・「選挙におけるソーシャルメディアの影響と大手メディアの選挙報道の在り方」調査情報デジタル2023.08.23
- ・「なぜ、これほどまでにテレビの選挙報道はつまらないのか～衆院選報道ウォッチング」GALAC2022.02
- ・「選挙報道のお行儀～選挙報道・特番は視聴者に何を伝えようとしたのか」民放Online2021.11.17
- ・「選挙報道のお作法～現場判断に迷った時のヒント 選挙報道に携わる放送人へ」民放Online2021.10.25
- ・「情報の歪みは選挙を歪める」GALAC2016.10
- ・「『公正』の名を借りた『規制』の網」放送批評1997.02

26

「SNS/民主主義」に関する主な拙稿

- ・「安定的持続的なジャーナリズムのための制度設計」『メディア法のゆくえ』(尚学社)2025.6(刊行予定)
- ・「いま<面白い>を問い直す」現代思想2025.5(4.28発行予定)
- ・「SNS時代の選挙報道と市民」歴史地理教育2025.5(4.28発行予定)
- ・「続・揺れるジャーナリズム 軋む表現の自由」言論空間2024冬
- ・「揺れるジャーナリズム 軋む表現の自由」現代の理論2024秋

以下単著

- ・『沖縄報道～日本のジャーナリズムの現在』ちくま新書
- ・『言論の自由～拡大するメディアと縮むジャーナリズム』ミネルヴァ書房
- ・『ジャーナリズムの行方』三省堂
- ・『放送法と権力』田畑書店
- ・『3・11とメディア』トランスビュー

27

→
presslaw.xsrv.jp/
(個人ブログ)
寄稿が読めます。

山田健太

←
www.journalism.jp
(ジャーナリズム学科サイト)
関連イベントがあります。

28